「脱炭素ちがさき市民会議」第2回 会議録

1. 概要

日時 : 2024年9月8日(日) 13:00~17:00

会場 : 茅ヶ崎市役所 本庁舎 4階会議室

参加市民 : 26名 (6グループを編成)

情報提供者 : 大塚彩美氏 (脱炭素ちがさき市民会議実行委員会副委員長)

柳下正治 (一般社団法人環境政策対話研究所 (IDEP))

柳下元邦氏 (茅ヶ崎市環境部環境政策課課長)

全体ファシリテーター : 大江結花 (一般社団法人環境政策対話研究所 (IDEP))、村上千里 (同)

2. 目標(ゴール)

・アウトプット(市民会議の具体的な成果物・成果目標)

- 「脱炭素ちがさき」のイメージと次回話し合う「テーマ」

・アウトカム(市民会議終了後の参加市民の状態)

- 「脱炭素ライフスタイル」チャレンジの振り返りと、茅ヶ崎市の特性の再発見を通じて、「脱炭素ちがさき」をイメージし、次回以降それをテーマに話しあうことにワクワクしている

3. 実施概要

〈タイムスケジュール〉

時刻	内容
13:00	開会・主催者挨拶・チェックイン
13:15	オリエンテーション
13:20	イントロダクション: 「脱炭素ライフスタイルチャレンジ」の振り返り
13:25	グループワーク1: 「実施したアクション」からの気づきの共有
13:35	情報提供1: 脱炭素アクションの結果を「脱炭素ちがさき」づくりの議論につなげる
13:45	グループワーク2: 「実施しなかったアクション」の考察
14:05	休憩
14:15	情報提供 2-①: 茅ヶ崎市に関する基礎情報
14:30	情報提供 2-②: 茅ヶ崎市からの情報提供
14:35	グループワーク3: 気づきの共有、質問の抽出
14:55	休憩 (この時間に茅ヶ崎市の魅力や脱炭素につながる場所などを共有)
15:15	質疑応答
15:40	グループワーク4: 「脱炭素ちがさき」のイメージを描く
16:20	イメージの発表
16:40	次回話し合うテーマの整理とシール投票
16:50	チェックアウト
16:58	クロージング

	「テーマ」の参加希望についてのアンケートの説明
17:00	終了

(1) 開会挨拶・チェックイン

はじめに、脱炭素ちがさき市民会議実行委員会の加藤洋実行委員長より開会挨拶を行った。台風の影響により前回の会議が延期となったことに言及し、日程が変更になった中でもご参加いただいた市民の皆様への感謝、場所の確保をしてくださった市役所の皆様への感謝を伝えた。また本日の目的やルールの確認を行い、異なる意見も尊重した活発な意見がなされる有意義な議論の場にしていただきたいと述べた。

続いて、全体ファシリテーターの大江結花から今回及び次回以降の目的を共有と、この会議を構成している多様なメンバーの紹介が改めて行われた。チェックインとして、「呼ばれたい名前」「居住エリア」「前回からの変化(初めての方は今の気持ち)」についてグループ内で自己紹介を行った。

(2) オリエンテーション(村上千里)

全体ファシリテーターの村上から、前回の振り返りと今回以降の会議の流れおよびアウトプットについての共有を行った。前回は全4回の市民会議の趣旨の共有及び、気候変動についての情報収集、さらにその原因となるCO2が自分たちの生活にどのように関係している、どのような行動を起こすことでCO2の排出を減らすことができるかを学習したこと、そしてその中の脱炭素アクションからいくつかのアクションを選び夏休み中に実際にやってみることを決めたことを共有。

続いて、前回の会議後のアンケートからいくつかの意見を共有した。共有された情報については、「もっと茅ヶ崎の話を知りたい」、「気候危機の深刻さをさらに詳しく知りたい」などの意見があり、グループワークについては「話が外れてしまった」、「グループでの話し合いの時間が少ない」といった意見が共有された。今回の会議ではそれらの意見を反映し、運営を行うことを示した。

最後に全4回の最後の市民提案では「脱炭素ちがさき」のイメージとそれを実現するための方法を考え抜いていくことを改めて説明し、今日の目的はそのイメージ「脱炭素だけれど住み良い茅ヶ崎(こうなっていたらいいな)」を考えることである旨が伝えられた。そしてそのイメージを元に次回の話し合いのテーマ設定が行われることを説明した。

(3) イントロダクション: 「脱炭素ライフスタイルチャレンジ」の振り返り (村上千里)

村上より、脱炭素ライフスタイルのチャレンジについての事前、事後アンケートの内容の共有が行われた。アンケートの内容は、参加者がアクション25のうち実施してみたいものを選び、チャレンジした感想や困難な点、あるとよいと思ったサポートなどを送ったものである。事前アンケートは41名、事後アンケートは23名が回答した。チャレンジしたアクションの種類には偏りが見られ、使い捨てプラスチック製品を使用しないこと、食品ロスをゼロにしないことなどが多く実践されたようだ。

続いて、事前アンケートで「将来、条件がそろえば実施したい」の割合が高かったアクションとして、自宅への太陽光発電や太陽熱温水器の設置、断熱リフォームなどを紹介、このようなアクションが広がるには何が必要かについて考えることが必要であると述べた。

(4) グループワークI: 実施したアクションの振り返り

グループワークIでは、実施したアクションで一番印象に残ってるものを一つ選び、「アクション名」「よかった・困難を感じた点」「どのような支援・社会の変化があれば取り組みやすくなるか」について、各自付箋に書き出し、グループ内で共有した。

(5)情報提供1：脱炭素アクションの結果をいかに「脱炭素ちがさき」づくりの議論につなげていくか
(柳下正治)

IDEPの柳下より今回参加者が行った脱炭素アクションの実践結果を踏まえ、「脱炭素ちがさき」づくりを実現するための情報共有を行った。

2015年パリ協定採択を機に「行動変容は言葉から実践に」というメッセージを掲げ、世界中が本気で脱炭素に取り組み始めたことに触れた。続いて、具体的に(1)消費、(2)移動・交通、(3)循環型社会づくり、の三つの分野において、脱炭素を実現するアクションが広がるための各主体の役割(メーカー、流通事業者、行政、消費者等)について示した。

また、脱炭素の取り組みの中で強調されてきた市民の意識変革と行動変革について特に意識変革を行動変革に結びつけることの難しさを強調し、必要とされるアクションを市民が「無理せず」実践できるものにするためには、社会のルールや市場の在り方、まちづくりの在り方などを変えていくことが必要であると述べた。今回の参加者の実践ではエコドライブや買い物に関わるアクションが多く選ばれた一方で、住まいに関わるアクション(太陽光発電の設置や断熱強化など)の実践(2週間での検討を推奨)が少なかったことに着目し、そのようなアクションがより身近なものになっていくためには企業・行政・地域組織・団体への働きかけや協働が必要であるという考えを示した。

最後に、市民とは行動主体であり、主権者、投資家など、いくつもの側面があるということ意識した上で今回の議論が行われることへの期待を述べた。

(6)グループワーク2：実施しなかったアクションについての検討

グループワーク2では、「実現しなかったアクション」のうち、グループ内で共有したいものを一つ選び、「アクション名」「できない・難しい理由」「どのような支援・社会の変化があれば取り組みやすくなるのか」について、各自ふせんに書き出し、グループに共有した。なお、進行は各グループに1名ずつ配置されたグループファシリテーターが担当した。(「取り組みづらさ」の考え方としては、「将来取り組みたいと感じるが今の段階ではできない」、「一人ではできたが家族や同僚と一緒にやると難しい」、「長期間では難しい」などの観点が示された。)

(7)情報提供2-①：茅ヶ崎市に関する基礎情報：茅ヶ崎市の概要と地域特性(大塚彩美氏)

大塚氏より、茅ヶ崎という文脈でエネルギーや気候対策をいかに考えるかという観点からの情報提供が行われた。エネルギー自立の村ドイツのヴィルドボルツリードを例に挙げ、「地域の活動」という文脈においてエネルギーをどのように扱うかを考えることの重要性を指摘、また、脱炭素を考える際の枠組みとして茅恒等式を紹介し、「豊かさ」、「社会・経済・まちづくりの姿」、「エネルギー消費の姿」、「エネルギー供給の姿」の各項についてそれぞれ具体例を挙げ説明を行なった。そして、全ての要素についてチャンスや課題を考える必要があり、本市民会議はそれができるチャンスのある場であることを強調した。

続いて、茅ヶ崎の「人口・年齢構成」、「地勢、交通分担率」、「昼夜間人口比率」、「バス路線」、「コミュニティバスの財務状況」、「高齢化率」、「住まいと建築物」、「太陽光設置のポテンシャル」、「農業・漁業」、「ごみの排出量」等の現状の詳しい説明が行われた。

最後に、戦後茅ヶ崎では市営のバスがなかった時代に市民が主導し、市民バスを実現・運営していた歴史に触れ、参加者がそのような地域に住むことに誇りを持ち、脱炭素の取り組みについても有意義な議論と主体的な実践なされることへの期待を述べた。

(8)情報提供2-②：茅ヶ崎市からの情報提供：茅ヶ崎市の取組(柳下元邦氏)

柳下氏より茅ヶ崎市が考える「まちのありたい姿」と現在の気候変動の対策として行われている取り組みについて説明が行われた。まちのありたい姿として、茅ヶ崎市のシンボルの一つである砂浜が温暖化

の進行による海面上昇によって失われる懸念について言及し、カーボンニュートラルを実践できないことは将来的には茅ヶ崎の姿が変わってしまうことにつながることを、茅ヶ崎の良さを失わないためにも脱炭素の取り組みに価値があると考えていると示した。

続いて、茅ヶ崎市・寒川町で行われた気候非常事態宣言、茅ヶ崎市環境基本計画の紹介がなされ、市民会議で出された提案は、来年度に予定している茅ヶ崎市環境基本計画の中間見直しの際に参考にすると述べた。

また、2050年実質カーボンゼロに向けて行なっている対策として、省エネの啓発、再エネ導入の推進、子ども世代に向けた人材育成の取り組みについての紹介を行なった。

(9)グループワーク3(情報提供に対する気づきの共有、質問の抽出)・質疑応答

グループワークでは、情報提供に関して各自が「大切だと思ったこと」「印象に残ったこと」を等の感想を付箋に書き出し、グループ内で共有した。その上で、「もっと知りたいこと」を2つ程度に絞り込み、グループの質問として整理した。

質疑応答の概要は次のとおりである。回答は、茅ヶ崎市環境部環境政策課課長の柳下氏のほか、実行委員の大塚氏、同じく実行委員の柳下が担当した。なお、絞り込みから外れた質問については、今後の市民会議で取り扱うか、文書により後日回答することとした。

質問1:茅ヶ崎市として公立の小中学校に向けて現況を伝えていく予定はあるか。
回答:茅ヶ崎市は、小・中学校で学校版環境マネジメントシステム「スクールエコアクション」などの取り組みを行い、11月には環境フェアを開催して、各学校の取り組みを発表する場を提供している。
質問2:脱炭素に向けた人材育成の具体的な内容について知りたい。
回答:具体的には、学校での環境教育やセミナーの開催などを行っており、去年は気象予報士のくぼてんきさんを講師に招いて、子ども向けの講座を開催した。
質問3:茅ヶ崎市に人材育成の専門家や担当者はいるか。
常設の専門家はいないが、適宜、外部から講師を招く形で対応している。
質問4:気候非常事態宣言の認知度を高めるPR戦略はあるか。
2050年のカーボンニュートラルを目標としているが、認知度の向上については今後さらに強化する予定だ。
質問5:市の取り組みで、脱炭素に向けて優先順位が高いものは何か。
回答:まずは省エネで、すぐに実行可能な取り組みとしてLED照明に切り替えて行くなど、エネルギー消費量の削減に注力していく方針である。
質問6:茅産茅消を実現するために、市が取り組んでいることを知りたい。
回答:農水課の担当のため、詳細はわからない。次回、必要があれば調べてお答えする。
質問7:茅ヶ崎市のごみ排出量のランキングはなぜ高いのか。
回答:茅ヶ崎市のごみ排出量は、令和2年では県内33市町村中(少ない方から)15位であったが、令和4年度からごみの有料化が始まったことで、排出量は改善されて、直近(2022年度)は2位となっている。
質問8:市としての脱炭素の取り組みのロードマップを具体的な数値で知りたい。(なにをいつまでにどのくらい)
質問9:市民一人一人がどの程度取り組むと、脱炭素の目標を達成できるのか。
回答:二酸化炭素排出量は、推計値として出している。産業部門、家庭部門、業務部門、運輸部門(ガソリンなど)について、2030年度に基準年度(2013)比46%削減するため、エネルギー消費量を減ら

すとこれだけ CO2 が削減されるという部門ごとの数値目標、やるべき施策を脱炭素シナリオとして整理しているが、ソフト的な話より成果の大きいハードの面が主となっている。私たちの日常生活における取り組みが、どのように目標に向かっているのかといった、ロードマップ(脱炭素シナリオ)ができればと良いとは考えているが、具体化について現在研究中である。

回答補足(柳下正治氏):二酸化炭素排出量は経済と同じで、茅ヶ崎の人口按分でカウントした時の数値であり、自分の変化が茅ヶ崎での数値に直結するということではない。このため、個人の行動による影響を市として明確にすることは難しい部分がある。

質問 10:入り組んだ細い道が多い地域で、優れたまちづくりの例があれば教えてほしい。

回答:茅ヶ崎の道路は特殊なため、今後調査してみたいと思う。次回参加の専門家に事前に回答を依頼しておく。

(10)休憩 (茅ヶ崎市の魅力的なスポットの共有)

この時間に茅ヶ崎市の魅力や脱炭素につながる場所(おすすめスポット)などの共有が模造紙と地図を使用して行われた。全体ファシリテーターの大江から、この取り組みについて、脱炭素に狭めない茅ヶ崎ならではの情報も共有し合い、このような地域で皆さんと脱炭素の取り組みをしていくということを改めて認識し、「脱炭素ちがさき」のイメージづくりに活かしていただきたいという目的の説明があった。市民会議終了時には、ナッツやドライフルーツの量り売りをしている場所、話せるエコ本屋など、29 件の共有があった。

(11)グループワーク4: 脱炭素ちがさきのイメージを描く、全体発表

グループワーク4では、「脱炭素で住みよいちがさき」をより具体的に描くワークを行った。まず、ここまでのワークで出し合ったアイデアの再確認を行い、「脱炭素ちがさき」では何がどうなっているとよいか、アイデアを付箋に書き出しグループで共有した(なかったものがある、あったものがなくなる、できなかったことができるようになるなど「〇〇が△△になっている」の形式で出し合った)。出し合ったアイデアを関連するものでグルーピングして、「見出し」をつけて A6 用紙に書きまとめを行った。

続いて、全体共有では、各グループの代表者が話し合いの内容を発表した。

グループ	概要
1	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の多い街、交通システムが整っている茅ヶ崎 ・地産地消:エネルギー・食料自給率が高い茅ヶ崎 ・脱炭素に関する教育が整っている茅ヶ崎 環境意識の高い「かっこいい茅ヶ崎」に住みたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・茅ヶ崎ブランドの確立 太陽エネルギーで作った電気も茅ヶ崎ブランドとして売る ・なんちゃって見える化で危機感をリアルに。 省エネが今日できているのかできていないのか、危機感をわかりやすく煽ってもらいたい。誰がどのくらい削減したか正確に出せなくてもよいので、現状を見える化してくれるとモチベーションになる ・地産地消やエシカルな食を推進する 茅ヶ崎独自の名物(例:茅ヶ崎牛など)を作り出す。 ・バスやタクシーの EV 化を進め、環境意識の高い町を目指す。 ・生ゴミの循環率を 90%以上にし、循環型社会を作る。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・深呼吸してリラックスできるクリーンな街茅ヶ崎

	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ少なくて、住民も住みやすく観光客も多い茅ヶ崎。 ・細い道の多い今の茅ヶ崎にあった交通の整備がされている茅ヶ崎。 レンタサイクルなどの充実
2	<ul style="list-style-type: none"> ・市民がエコが好きな街(教育) ・再エネ100%の町 ・脱プラ宣言茅ヶ崎 街からリサイクルがなくなっている。量り売りの店の普及 ・自転車で1日楽しめる街。 ・乗るものすべてがグリーン茅ヶ崎 タクシーやコミュニティバスのEV化を進める。 ・エコでおしゃれなまち茅ヶ崎市 脱炭素ポイント制度や地産地消の推進を通じて、脱炭素をカッコいいイメージに ・深呼吸が似合う街茅ヶ崎 海や山、広い砂浜、自然を大切にする街
3	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーを活用する茅ヶ崎 太陽光パネル、風力、潮流を活用したエネルギー開発 ・エコ活動のインセンティブが反映される茅ヶ崎 ・移動が最適化している茅ヶ崎 駅の近くの自転車置等 ・情報がリアルタイムでわかり意識が高い茅ヶ崎 市民の環境の意識を上げるため情報をリアルタイムに確認できるようにする
6	<ul style="list-style-type: none"> ・集まる話せるみんなの街ちがさき 公共施設に気軽に立ち寄ることで気軽に話せる。街中避暑地として活用する ・4R(リユース、リフューズ、リデュース、リサイクル)があたりまえの茅ヶ崎 4Rを徹底し、きれいな街を作り、他地域からも人が訪れる魅力的な町にする ・交通の利便性がいいちがさき 電柱の地中化や自動運転でコミュニティバスの運行を増やす

(12)次回話し合うテーマの整理、シール投票

ホワイトボードに貼られた「脱炭素ちがさき」のイメージを似た内容でグルーピングし14の「テーマ」に整理、続いて、テーマに対してシール投票を行った。シールはひとり5枚持ち、「脱炭素ちがさき」において「重要だ」「より深く話し合うべき」と思うテーマ4点にシールを1枚ずつ、さらに自分が話し合いたいと思うものにもう1枚(計2枚)貼った。

参加者には会議終了後、後日のこのテーマの中から、次回話し合いたいと思うテーマを第3希望まで回答するアンケートが送られる旨が伝えられた。第3回会議ではアンケートの回答結果を踏まえ、各参加者が2つのテーマの話し合いに参加することになると説明が行われた。

(13)チェックアウト

全体ファシリテーターより、第3回市民会議の内容について説明を行なった。また、チェックアウトでは、本日の感想をグループ内で共有した。第2回会議参加後アンケートについては時間の関係上後日送られることが伝えられた。